

あずま小学校だより

学校通信

第4号 令和7年4月28日

学校教育目標 よく考える子 思いやりのある子 たくましい子



地震を想定した避難訓練を行いました

4月25日(金)3時間目に、地震を想定した避難訓練を行いました。今回は避難経路を確認することが主な目的のため、事前に知らせてあり担任の誘導で避難しました。訓練後の校長講話の中で下のような内容を話しました。

避難訓練お疲れ様でした。地震があると火事が起こる心配があるので、早く避難することが大事ですが、みなさんはすばやく行動できたと思います。ただ、少しおしゃべりがありました。次回は口を閉じて避難してください。さて、避難訓練とはみなさんが学校にいるときに火事や地震、噴火、洪水、不審者の進入などが起きることを考えて、安全を保ちながら被害の少ないところまで移動する練習です。今回は地震が起こった場合の避難訓練を行いました。

学校で地震が起きたとき、みなさんがどう行動するかはとても大事です。地震に続いて火災報知器が鳴り出したらどうしますか。校庭で遊んでいるときになるかもしれません。トイレにいるときになるかもしれません。「先生を探しますか」「とりあえず自分の教室に戻りますか」「ほかの人を見て同じ行動をしますか」「その場になってから考えますか」。実はこれらは全部危険です。特にその場になって考えるは、考えている間に煙がやってくるかもしれません。そういうときどうするか、あらかじめ決めておかななくてはいざというときに行動はできないのです。例えば、家で寝ているとき、大きな地震が起きて家具が倒れ自分以外の家族が動けなくなっていたとします。そのとき、煙がどこからか流れてきました。火事になってしまったのでしょうか。このときどうしますか。「家族をおいて逃げますか」



「それとも、助けますか」その場で迷っていたら全員しんでしまいます。そういうときどうするか事前に話し合っておくのが大事なのです。

先ほどの質問の火災報知器がなり出した場合ですが、火事が起きた場所を放送等で確認したうえで行動することが大切です。校庭に避難するのが基本ですが、燃えている場所を離れて避難する経路を自分で選ぶのです。

実は避難は自己判断が大切です。先生がいれば、その指示で避難すればよいですが、いない場合は自分で判断しましょう。どうすることが一番安全なのか、日頃から考えておくことが大切です。

上の家具が倒れ火災が発生した際の選択問題ですが、前任校の防災講演会で講師の先生からあった質問でした。5・6年生と保護者への質問だったのですが、児童の半分ほどは「家族を助ける」と答えたのに対し、保護者の方は全員「逃げてほしい」と答えました。考えさせられました。下校途中にちょうど半ばまで来た時に大きな地震があった場合、そのまま自宅に帰るのか、学校に戻るのか、近くの避難所に行くのかなど、日頃から災害があった場合はどうするか話し合っておくことが大事だと思います。



児童集会を行いました

4月25日(金)の朝、9つの委員会が活動内容等を紹介する集会をリモートで実施しました。児童会本部役員の司会で、各委員長が発表しました。どの発表者もはきはきと分かりやすい言葉ですばらしい発表をしてくれました。委員会を担う5・6年生には、普段行われている仕事内容に加え、新しい企画も考え実行して、委員会活動がさらに活発になることを期待しています。



安全な給食について

給食が始まって3週間が経ちました。この間緊急の用事がない限り全クラスの給食配膳や食事の様子を見て回っています。理由は2つあります。

1つめは、安全な給食が届けられているか確認するためです。おかしい匂いがしないか、食べられないものが入っていないかなど確認しています(職員もちろん行っています)。2つめは、おいしく食べられているかを確認するためです。熱すぎたり冷たくなったりしていないか、量や色は適切か、味付けはどうかなどを確認しています。なお、この2つを確認するために、「検食」といって、校長は児童より30分早く給食を食べています。

こうして、給食のとき教室を回る理由を書きましたが、一番の理由は、児童が給食を食べている姿を見たいからです。子どもたちが給食をもりもり楽しく食べている姿を見るのが大好きです。数物じゃんけんをみるとわくわくします。1食300円くらいで今時食事はできません。それをこうして実現し、しかもいろいろなメニューが出てきます。カレーやデザートが出る日は朝から待ち遠しいです。

さて、給食について子どもたちには2つの思いがあります。

1つは、教室でみんなと一緒に食べることによる食事の楽しさ・大切さを感じてほしいということです。みんな同じメニューを同じ場所で、同じ時間に食べることで、これは実は特別なことです。給食がなくなるとこの経験はなかなかできません。おかわりを競うライバルの存在や食べ物のお話でもりあがる・・・楽しく給食の時間を過ごしてほしいです。

2つめは、食べ物を大事にする感謝の心を持ってほしいということです。朝の市場に行くと、信じられない時間に、信じられない人数の方々が、野菜を選ぶところから作業をしています。

食卓に並ぶまでに、どれだけの多くの方が関わっているか考えると感謝しかありません。

一度にたくさん作り、食缶につめ時間をおいて食べなければならず、徹底した安全性を求められるがゆえの制約があるからこそ、独自のおいしさを追求した給食の、その素晴らしさに感謝して毎日給食をいただきたいものです。

なお、山形県鶴岡町の小学校で貧困児童を対象に無料で食事を提供したのが学校給食の始まりとされています。そのときのメニューは「おにぎり2個、焼き魚、漬物」といったものでした。今はズワイガニまで出る県があります。子どもたちにとって給食がわくわくできる場になればと願っています。

